

医学部予備校・富士学院の坂本友寛学院長が話す。

「就職状況がとても良かったバブル経済当時は医学部の志願者が大きく減りました。現在の就職状況も好調ですが、先行きは不透明です。それでも、医師は将来的に間

違いなく安定している職業なので、人気は衰えないでしょう」

将来が安定している医学部は女子の人气が高い。合格者の女子占有率（同下表）を見ると、佐賀大や埼玉医科大など7校が40%超だ。

医学部入試では、全国の大学を視野に入れる受験生が多いのが特徴だ。学費の安い国公立大であれば大学を問わない受験生がいることに加え、大学間の国家試験合格率に大きな差がないこともある。76%の医師国家試験合格率を見ると、自治医科大を筆頭に、表に挙げた30大学全てが90%台だ。

また、設置数が少ない医学部の入試では、全国規模で相性の良い大学、つまり合格しやすい大学を探す必要があることも大きい。

「医学部の入試問題は大学によっ

て出題範囲や傾向が異なります。大学との相性が合否に大きく影響します。大学ごとの入試情報を集め、自身の現況を踏まえ、志望校を決めたいですね。医学部入試に詳しい高校の先生や予備校の担当者の意見を参考にするといいでしょう」（富士学院・坂本学院長）